

科目名	経済予測論B
担当者	嶋中 雄二
配当学期	秋学期
単位	2単位
授業概要	<p>本講では、民間予測機関の現場で、実際に経済予測の作業に従事して情報発信を行っている立場から、実社会において有用な、最新の経済データや景気循環のパターンを分析して行う経済予測の大切さ、面白さを理解してもらうことを目的としている。</p> <p>短期の経済・景気予測を行う場合、方法論としては、「景気先行指数による予測」、「ビジネス・サーベイによる予測」、「計量モデルによる予測」、「段階的接近法による予測」の4つが基本となる。</p> <p>本講では、まず4つの方法論を、極力やさしく解説する。そしてこれらや基礎的な景気循環分析を活用して、民間予測機関の現場における経済予測作業の実態を踏まえながら、希望があれば、受講者と一緒に、実際に経済の先行きをごく簡単に予測してみようと思う。なお、嶋中チームに属するプロのエコノミストも時折講義に合流して、予測の勘所や苦労話を含めた報告を行う予定であるし、興味がある受講者には、11月に開催される景気循環学会大会に参加して討論や報告を傍聴してもらう計画もある。</p>
授業の到達目標	経済予測の基本的な方法論を習得し、自分なりの予測を持てるレベルになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 景気先行指数による予測</li> <li>(2) ビジネス・サーベイによる予測</li> <li>(3) 計量モデルによる予測</li> <li>(4) 段階的接近法による予測</li> <li>(5) 個別景気指標の内容と見方</li> <li>(6) 景気循環を用いた予測</li> <li>(7) 景気循環の特性</li> <li>(8) 景気循環の要因</li> <li>(9) 外生要因説</li> <li>(10) 内生要因説</li> <li>(11) 面積説と心理説</li> <li>(12) 日本経済の予測と方法</li> <li>(13) 米国経済の予測と方法</li> <li>(14) 欧州経済の予測と方法</li> <li>(15) 中国・アジア経済の予測と方法</li> </ol>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嶋中雄二/三菱UFJ証券景気循環研究所編著『先読み！景気循環入門』（日本経済新聞出版社、2009年）を使用する。</li> <li>・ ほぼ毎回、嶋中の最新の講演資料を配布する。</li> </ul>

参考文献	嶋中雄二UFJ 総合研究所投資調査部編著『実践・景気予測入門』（東洋経済新報社、2003年）。	
成績評価方法		評価基準
	試験 0%	実施しない。
	レポート 50%	簡単なもの。 講義の内容や課題の趣旨に沿ったレポートの作成を望む。
	平常点評価 10%	講義中のやり取りの中で、講義内容の理解度を確認する。
	その他 40%	休講を除く全回の出席で、40%の得点とする。但し、大幅な遅刻は、他の出席者との公平性を確保するため、特別な事情がない限り減点する。
関連 URL	<a href="http://www.sc.mufg.jp/">http://www.sc.mufg.jp/</a> 景気循環研究所レポート	
備考	前期科目「経済予測論 A」と併せて選択することが望ましい。	